

マダラヤンマ

Aeschna mixta Latreille

トンボ目ヤンマ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

本県が南限に近く、生息地が限られ、個体数も少なく、開発などの影響を受けやすい。

形態

腹長42~47mm、後翅長40~45mm。オオルリボシヤンマを小型化したような種類。胸は黄緑、腹部は青い地に黒い条紋がある。

国内分布

北方種で、本州中部以北に分布し、福井県でも時に見られるが、富山県での確認例が多い。

県内分布

小松市（安宅新、四丁町、今江）、金沢市北部公園、羽咋市（大川町、寺家）などの報告があり、特に羽咋の太田崖や志賀町の一部では、ほぼ例年みられたが、最近はきわめてまれとなった。

生態

平地～丘陵のヨシ、マコモ、ヒメガマなどの多い池沼に幼虫が育ち、成虫は主として9～10月を中心に活動する。未熟虫は疎林に分散して摂食し、成熟すると池沼に飛来してオスは初期にはやや高く旋回するが、やがて抽水植物のまばらになった部分で占有飛翔を行ない空中によく停飛する。周囲にだけヨシなどが生えている沼では、周回型の飛翔も見られ、よくトンボ科の種のような静止態をとる。

生息地の条件

北陸では主に海岸近くの丘陵や平地の池沼で、農薬、廃水などの影響がなく、ヨシ、ヒメガマ、マコモなどの抽水植物が多い環境が要件。ブラックバスやブルーギルの移入もなく、付近に疎林があり、堤防がコンクリートや防水シート張りでないこと、あまり深くないことも重要。

生存の危機

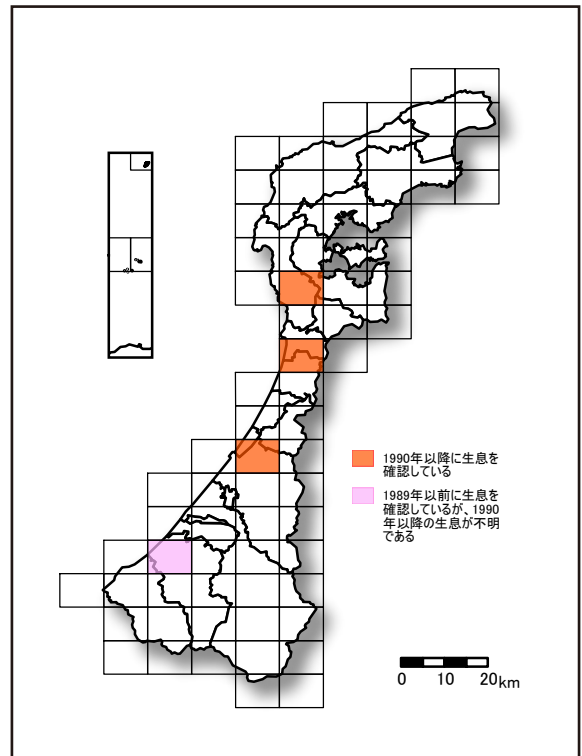
沿岸平野の池沼は、廃棄物投入や埋めたての対象にされやすい。農薬の空中散布、ブラックバスなど捕食性魚類の移入による直接的影響の他に、疎林の伐採なども減少をもたらす。ため池の改修による自然度の減少、逆に放置したために植物が進出し乾燥化する場合や、時にはサギなどの繁殖により汚染が進んだり、ハスがはびこり開水面が消失することもある。最初に発見された羽咋市寺家の沼は、公園化され放置されて乾燥し、小松市安宅新や四丁町の池も埋めたてや水抜きで、本種が現われなくなっている。(A, B)

参考文献

武藤 明 1998. トンボ目. 石川県の昆虫 : 49-57. 石川県自然保護課.



標本提供者: 武藤明



県内の分布